

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	衛生学研究 Y11001	後期	講義	2	必修
担当教員	松岡 裕之				
授業の概要	養護教諭に必要な公衆衛生学の知識を、現状・課題・対策の視点から再確認します。				
到達目標	1. 養護教諭に必要な公衆衛生についての現状・課題・対策を説明することができる。 2. 養護教諭に必要な公衆衛生についての知識を持ち専門教員として求められる問いに解答することができる。 3. 養護教諭に必要な公衆衛生についての知識を学校の現状と結び付けて考えることができる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	1. 公衆衛生概論：①公衆衛生とは ②公衆衛生行政 2. 保健衛生統計：①健康水準と健康指標 ②人口統計 3. 疫学・疾病予防学：①疫学 ②健康管理と疾病予防対策 ③健康増進 ④国民健康づくり運動 5. 学校保健：①学校保健 ②子どもの健康と学校保健 ③地域社会・地域保健・産業界・産業保健との関わり 6. 環境衛生：①環境衛生の定義 ②環境衛生の主な項目 ③学校の環境衛生 7. 主な疾病の予防：①疾病予防の原則的考え方 ②主な疾病の予防(感染症の予防) 8. 主な疾病の予防：③主な疾病の予防(循環器系の疾病・生活習慣病・がん・アレルギー疾患・不慮の事故と自殺の予防) 9. 精神保健：①精神障害 ②主な精神障害の現状 ③メンタルヘルスケアの現状と課題 10. 精神保健：④学校における精神上的課題を有する子どもへの支援と今後の課題 11. 母子保健：①母子保健の定義 ②母子保健の水準 ③小児の発育と発達 12. 母子保健：④母子保健の課題 ⑤子どもの貧困対策 13. 食品衛生：①食品衛生の意義 ②食品衛生行政 ③食中毒 ④学校給食の衛生管理 14. 産業保健：①産業保健の基本的事項 ②産業保健の概要 ③教職員の職業生活と健康 15. 高齢者の保健と福祉：高齢者・高齢者社会とは ②高齢者の健康 ③高齢者福祉				
事前・事後学習について	授業は対話形式で行います。テキストにそって授業展開しますので、テキストを一読し自分の意見をもって授業に臨んで下さい。授業後もう一度テキストを読み返し理解を深めたり、知識の定着をはかってください。その際、別の書籍や資料に目を向けることも必要です。				
準備学習に必要な時間	授業回のテキスト範囲を一読し、自分の考えをまとめる時間(各々異なると思いますが、じっくり向き合ってください)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	70	知識の理解(達成目標1・2・3)		
	実践	30	ディスカッションでの発言・発言内容、思考・判断力(達成目標1・3)		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	ディスカッションの多い授業ですので自分の考えを持って授業に臨んでください。				
使用テキスト	資料配布				
参考書	「養護教諭のための公衆衛生学」河田史宝・内山有子、東山書房、2018。 「図説国民衛生の動向 2023/2024」一般財団法人厚生労働統計協会、2023。 「国民衛生の動向 2023/2024」一般財団法人厚生労働統計協会、2023。 「公衆衛生がみえる 2023-2024」医療情報科学研究所、メディックメディア、2022。				

対象学生	養護教育専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	学校保健研究	Y13003	1年 前期	講義	2	必修				
担当教員	澤田 有香									
授業の概要	本科で学んだ学校保健の知識を基に、学校保健の現状から今後の課題を考える。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫緊の健康課題の実情を知り、その方策を考えることができる。</li> <li>・わかりやすい文章の書き方やまとめ方ができる。</li> <li>・様々な健康課題の中から自分の修了研究のテーマの方向性を決めることができる。</li> </ul>									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○	○							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「児童生徒が現代社会におかれている現状と課題」オリエンテーション・学校保健の現状と課題を知る。</li> <li>2. 「健康管理の動向①－児童生徒の発育・発達、感染症」児童生徒の発育・発達の現状と感染症の概要を理解する。</li> <li>3. 「健康管理の動向②－内科」内科（身体発育と栄養状態・循環器・呼吸器・学校検尿）についての動向と課題を理解する。</li> <li>4. 「健康管理の動向③－眼科・耳鼻咽喉科」眼科、耳鼻咽喉科についての動向と課題を理解する。</li> <li>5. 「健康管理の動向④－皮膚科、アレルギー科」皮膚科、アレルギー科についての動向と課題を理解する。</li> <li>6. 「健康管理の動向⑤－整形外科、産婦人科」整形外科、産婦人科についての動向と課題を理解する。</li> <li>7. 「健康管理の動向⑥－歯科・歯科口腔外科、児童生徒のメンタルヘルス」歯科・歯科口腔外科、児童生徒のメンタルヘルスについての動向と課題を理解する。</li> <li>8. 「健康管理の動向⑦－児童生徒等の事故・災害、教職員の健康管理」児童生徒の事故災害、教職員の健康管理についての動向と課題を理解する。</li> <li>9. 「学校環境衛生の動向」学校環境衛生の動向と課題を理解する。</li> <li>10. 「健康教育の現状①－保健教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育」保健教育と喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の現状と課題を理解する。</li> <li>11. 「健康教育の現状②－歯・口の健康教育」歯・口の健康教育の現状と課題を理解する。</li> <li>12. 「健康教育の現状③－食育、安全教育」食育と安全教育の現状と課題を理解する。</li> <li>13. 「健康教育の動向④－心の健康教育」心の健康教育の現状と課題を理解する。</li> <li>14. 「健康教育の動向⑤－性教育・エイズ教育」性に関する指導の基本的考え方を知り、その重要性を理解する。</li> <li>15. 「まとめ」全体的な動向と課題をまとめる。</li> </ol>									
事前・事後学習について	授業前には必ずテキストの該当箇所を一読してから臨んでください。 各課題について、レポートを作成し、毎回発表し合います。									
準備学習に必要な時間	1時間程度									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	40	グループ討議での発信力							
	レポート	50	思考力・判断力							
	その他	10	意欲態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	健康課題に関する様々な情報を元に考察し、グループ活動では意欲的に発言してください。									
使用テキスト	「学校保健の動向」令和7年度版 日本学校保健会 丸善出版(株)									
参考書	適宜指示する									

対象学生	養護教育専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	教育臨床心理学研究 Y12005	後期	講義	2	
担当教員	坂上 ちおり				
授業の概要	情緒的な不適応への学内における支援、発達障害への学内における支援に関する心理臨床の文献を購読する。主に心理職の支援方針を理解することが目的である。心理職の役割を理解した上で、養護教諭としてのどのような役割、支援ができるのか考えを深めていきたい。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献購読を通して、心理臨床場面での症例理解ができる。</li> <li>・事例に基づいた文献購読を通して、学校現場における心理職の行う支援方針について理解することができる。</li> <li>・養護教諭の役割を意識した支援方針を立てることができる。その支援方針について、他者に説得力を持って説明することができる。</li> </ul>				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 支援者として必要とされる姿勢：ディスカッション</li> <li>3. 心理検査⇒調べて発表</li> <li>4. 発達検査および知能検査⇒調べて発表</li> <li>5. 幼児期から児童期までに用いられる療法① 遊戯療法（箱庭） 安島智子. (2010). 授業妨害、暴力を続ける中一男子—スクールカウンセリングにおける「被害状況」との遊戯療法. 遊戯療法と子どもの「こころの世界」, 168-186. 金子書房.</li> <li>6. 幼児期から児童期までに用いられる療法② 母子並行面接・遊戯療法 長沼佐代子 (2011)・・・精神病的母親とその病的投影同一化に巻き込まれた場面緘黙児の精神分析的な心理療法. 白百合女子大学 発達臨床センター紀要, 14, 20-29.</li> <li>7. 幼児期から児童期までに用いられる療法③ 家族療法（ブリーフ） 衣斐哲臣. (2008). 家族交流を創る“将来の非行少女?”. 子ども相談・資源活用のワザ. 児童福祉と家族支援のための心理臨床, 103-122. 金剛出版.</li> <li>8. 精神保健領域①（境界例／認知行動療法）・・・松田美登子. (2012). 大学生の学生生活支援に活かす認知行動療法（CBT）の検討：境界性パーソナリティ障害へのCBT基本モデルによるアセスメントを中心に. 臨床発達心理実践研究, 7, 153-161.</li> <li>9. 精神保健領域②（性同一性障害）梅宮れいか. (2007). 性同一性障害（男→女）の思春期男子と人格障害を持つその母親の症例：治療者の情動に動揺を与える患者について. 臨床発達心理実践研究, 2, 58-63.</li> <li>10. 精神保健領域③（吃音） 村瀬忍・神野幸雄・馬淵沙奈美. (2013). 吃音のある小学生への支援：吃音の軽減と吃音への感情の変化について. 臨床発達心理実践研究, 8, 53-61.</li> <li>11. 発達障害①（学習障害）佐竹真次. (2009). 読字困難をもつ小学生の「イラスト漢字」トレーニング練習の効果. 臨床発達心理実践研究, 4, 157-163.</li> <li>12. 発達障害②（アスペルガー）藤原有子・村瀬忍. (2009). アスペルガー症候群生徒の学習指導に関する研究：思春期・受験期を迎えたA少年の事例を通して. 臨床発達心理実践研究, 4, 105-111.</li> <li>13. 発達障害③（ADHD）中田ゆかり. (2008). ADHD児に対する社会的ゲームによる社会性の発達支援：7並ベスクリプトによる「ルール変更の申し出」「理由の言語化」「自己統制力」「相手の意向をきく」行動の指導を通して. 臨床発達心理実践研究, 3, 60-68.</li> <li>14. 就学判断における審査カードの書き方および報告書の読み方</li> <li>15. 総括</li> </ol>				
事前・事後学習について	事前学習：臨床心理学の領域において行われている支援の実践研究論文を購読します。担当者はレジュメを作成し発表してください。わからないことは、個別に指導をします。 事後学習：論文購読を通して、各障害や精神疾患の基本的な様相について理解するだけでなく、そのことを保護者や管理職、担任にどう説明し、養護教諭としての支援を立案するののかについて考えを深めていけると良いと思います。				
準備学習に必要な時間	担当する発表回では、事前準備に3時間ほどかかります。各回、読み合わせをしますので、事前に論文を読んでおく必要があります（各回1時間程度）				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	100	支援の立案および説明する力		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	発表準備のため、事前にレジュメは教員の指導を受けるようにしてください。発表の際にもコメントをします。				
使用テキスト	特に指定しない				
参考書	適宜指示する				

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	ヘルス・カウンセリング研究 Y12006	後期	演習	2	必修
担当教員	澤田 有香				
授業の概要	医学的素養と心理学的素養、教育学的素養の3つを併せ持つ養護教諭の専門性を生かして進めるヘルスカウンセリングについて、事例を通して学んでいく。一般のカウンセリングとは違うヘルスカウンセリングについて理解を深め、多様化する児童生徒の心身の健康問題に対応できる力を身に付ける。				
到達目標	①言葉で自分の感情を表出できない児童に対して、心理テスト等を活用し、表出できるよう手助けできる。 ②あいまいな症状（だるい、しんどい等）に対して、専門職としてどう児童生徒にかかわっていったらよいか理解できる。 ③問診を丁寧に行い、症状から重要な手がかりを把握し、応急的な処置をしながら支援することができる。 ④多職種との連携をもとに効果的な支援を考えることができる。				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
	○	○	○		
授業計画	1. 「ヘルスカウンセリングの意義とプロセス」 ヘルスカウンセリングのプロセスを理解し、各段階で養護教諭に必要なスキルを話し合う。 2. 「多職種連携」 コーディネーターとしての役割を理解し、効果的な連携について考察する。 3. 「ヘルスカウンセリングの基本的姿勢や技法」 養護教諭の職務の特質や保健室の機能を用いたヘルスカウンセリングの基本的姿勢や技法を理解する。 4. 「心理技法」① エゴグラム・ロールレタリングの理解と演習 5. 「心理技法」② リラクゼーション法の理解と演習 6. 「心理技法」③ コーチング・ブリーフセラピーの理解と演習 7. 「心理技法」④ 構成的エンカウンターを理解と演習 8. 「頻回来室者・保健室登校支援」 プロセスとその支援方法を理解する。 9. 「事象別対応」 事象別対応について、ポイントを理解する。 10. 「ヘルスカウンセリングにおける組織的対応」 事例検討会について理解する。 11. 「事例検討会」① 事例をもとに模擬事例検討会を行う。 12. 「事例検討会」② 事例をもとに模擬事例検討会を行う。 13. 「事例検討会」③ 事例をもとに模擬事例検討会を行う。 14. 「事例検討会」④ 事例をもとに模擬事例検討会を行う。 15. 「事例検討会」⑤ 事例をもとに模擬事例検討会を行う。				
事前・事後学習について	事前事後学習については授業の展開を見ながらその都度指示します。				
準備学習に必要な時間	30分程度				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	60	演習		
	レポート	30	判断力・思考力		
	その他	10	授業態度		
受講上の注意・課題のフィードバック	演習を行い、その中で相互にフィードバックしていきます。授業毎に自己評価を含めたレポートを書いて提出してもらいます。				
使用テキスト	新訂 養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践 三木とみ子・徳山美智子 ぎょうせい				
参考書	教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引－令和3年度改訂－ (公財) 日本学校保健会				

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	栄養学研究 Y11007	1 年前期、 2 年前期	講義	2	必修
担当教員	岩瀬 彩香				
授業の概要	摂取した栄養素の体内ではたらきや、栄養素の特徴とそれらを含む食品、食物の消化と栄養素の吸収について学ぶ。また、成長期の食事やこの時期に起こりやすい栄養障害、スポーツ栄養について学ぶ。				
到達目標	栄養や食品に関する正しい知識を身につけ、成長期の対象者に適した栄養相談や食育指導ができる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と栄養 日本人の食の現状</li> <li>2. 栄養アセスメント</li> <li>3. 栄養アセスメントの実践①</li> <li>4. エネルギー供給栄養素とそれらを含む食品</li> <li>5. 体をつくる栄養素とそれらを含む食品</li> <li>6. 代謝調節栄養素とそれらを含む食品</li> <li>7. 食物の消化・栄養素の吸収とその仕組み</li> <li>8. 成長期の食事（食事摂取基準、食事バランスガイド、子どもを取り巻く食・栄養の問題）</li> <li>9. 食物アレルギーへの対応</li> <li>10. 運動と栄養（エネルギー代謝・アスリートの栄養）</li> <li>11. 生活習慣病と栄養①</li> <li>12. 生活習慣病と栄養②</li> <li>13. 食育リーフレットの作成</li> <li>14. 栄養アセスメントの実践②・ロコモティブシンドローム</li> <li>15. 作成したリーフレットを用いた食育の実演、まとめ</li> </ol>				
事前・事後学習について	<p>本科での「栄養学」での学びが基礎となります。復習をしておいてください。</p> <p>テキストの該当箇所に目を通して授業に臨んでください。保健や医療などの関連する分野の内容を確認し、複合的な学びを意識した復習をしてください。普段から自分の食生活に気を配り、健康増進を図ってください。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>毎回、事前にテキストの該当箇所を読んで予習しておいてください。（30 分程度）</p> <p>また、事後学習として、各自で復習をしてください。（1 時間程度）</p>				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	50	試験		
	実践	50	授業態度、取り組み状況、提出物		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	提出物は目を通し、必要があれば添削して返却します。				
使用テキスト	「イラスト栄養学入門」・田村明他・東京教学社				
参考書	特になし				

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	解剖生理学研究 Y11008	前期	講義	2	必修
担当教員	水上 佳樹				
授業の概要	<p>養護教諭が人体の構造や形態について学ぶことは、他の科目との関連もあって重要なことである。短大本科では、既に解剖・生理学を学び基礎知識を有していることから、基礎を学習しつつトピックスを交えてより実践的な内容を学ぶ。</p> <p>本講義は実務家教員の授業で、医師免許を有する教員が担当する科目である。医療に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p>				
到達目標	人体の構造や形態がわかる				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞、組織、血液</li> <li>2. 呼吸器の構造と検査法</li> <li>3. 呼吸器の病気</li> <li>4. 循環器：心臓、血管</li> <li>5. 循環器の病気</li> <li>6. 消化器①：消化管</li> <li>7. 消化器②：肝臓・胆嚢・膵臓</li> <li>8. 栄養、分泌、消化</li> <li>9. 泌尿、生殖</li> <li>10. 内分泌</li> <li>11. 骨、筋肉</li> <li>12. 中枢系</li> <li>13. 末梢神経と病気</li> <li>14. 感覚器</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
事前・事後学習について	実社会で役に立つ人体の解剖生理の知識を身に付けましょう。				
準備学習に必要な時間	1 時間程度				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100	人体の解剖と生理の理解		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないところはその場で質問してください。みんなで共有しましょう。				
使用テキスト	目でみるからだのメカニズム 医学書院				
参考書	適宜指示				

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	人体構造機能論 I Y11009	前期	講義	2	選択必修
担当教員	新宮 聖士・三浦 弥生				
授業の概要	体のしくみとはたらきを分かりやすく解説します。養護教養としてそれを児童生徒や教職員に伝えることのできる知識を身につけます。				
到達目標	1. 体のはたらきがわかる。 2. 体のしくみとはたらきを自分のことばで説明できる。 3. 体のしくみとはたらきから疾患の成り立ちやその予防が理解できる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	1. 生命：からだの構成成分 2. 血液：造血、血液成分、浸透圧等 3. 循環①：心臓の構造 4. 循環②：血圧や心電図の見方 5. 呼吸：呼吸器管、縦隔、呼吸機能 6. 腎臓：腎臓の構造 7. 運動系：骨格、筋肉、関節と画像診断 8. 消化①：消化管 9. 消化②：付属器官 10. 内分泌：内分泌器とホルモン 11. 生殖：生殖器と妊娠 12. 感覚器：目、耳 13. 脳神経：脳、脊髄、神経 14. 人体構造の機能と疾患①乳がんの発生機序 15. 人体構造の機能と疾患②乳がんの治療と予防				
事前・事後学習について	1～2 時間を要す				
準備学習に必要な時間	授業は質問形式で行います。テキストを一読し理解してから授業に臨んでください。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	50	人体構造と機能の理解		
	実践	10	質問に対する説明（人体に対する理解度）		
	レポート	30	人体構造と疾患の理解		
	その他	10	授業態度・意欲		
受講上の注意・課題のフィードバック	授業は質問形式で行います。人体構造の機能についてわかりやすく説明できるレベルまで理解していきましょう。				
使用テキスト	「イラストで学ぶ人体のしくみとはたらき第 3 版」田中越朗，医学書院，2019.				
参考書	適宜指示				

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	免疫学研究 Y11012	後期	講義	2	必修
担当教員	野上 綾子				
授業の概要	ヒトが自分の身を守るために自然に備わった防御システムである免疫は、自分と異なる非自己を識別して排除しようとする仕組みである。これらのメカニズムと免疫にかかわる物質、健康維持あるいは疾患における免疫の役割について学ぶ。				
到達目標	養護教諭として知っておくべき免疫学の知識とそれらに関与する疾患について理解する。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 免疫とは</li> <li>2. 自然免疫</li> <li>3. 獲得免疫</li> <li>4. 免疫に関わる細胞・物質</li> <li>5. 感染防御としての免疫（細菌感染）</li> <li>6. 感染防御としての免疫（ウイルス感染）</li> <li>7. 免疫と検査</li> <li>8. 予防接種とワクチン</li> <li>9. 炎症のメカニズム</li> <li>10. アレルギー①</li> <li>11. アレルギー②</li> <li>12. 腫瘍免疫</li> <li>13. 自己免疫疾患</li> <li>14. 後天性免疫不全（AIDS）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
事前・事後学習について	特別な事前学習はありません。 後に活用できるようまとめておきましょう。				
準備学習に必要な時間	30分～1時間程度を要する。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100			
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことは質問してください。 授業終了後のオフィスアワーで受け付けています。				
使用テキスト	「休み時間の免疫学」 斎藤紀先著、講談社				
参考書	特に指定しない。				

対象学生	養護教育専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	臨床診断実習 Y13016	前期	実習	1	必修
担当教員	三浦 弥生・坂上 ちおり				
授業の概要	小児科・病児保育および人間ドックの見学実習を行い、医療・看護の実際を学習する。①健康障害のある小児医療・看護・地域連携の実際を理解する。②看護における適切な援助・指導のための基礎的知識・技術・態度を学習する。③成人の健康管理・指導の実際を学ぶ。 本実習は実務家教員の授業で、看護師、保健師免許を有する教員が担当する科目である。看護、医療に関する実務家としての視点、臨床、医療現場での経験を交えて、学生に対し授業を展開していく。				
到達目標	1. 病院組織を理解する。 2. 小児科看護を理解する。 3. 疾病の早期発見、早期治療の実際を理解する。 4. 病院と地域の連携の実際を理解する。				
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
		○	○		
授業計画	1. 医療機関の概要 2. 医療機関の連携 (1) 医療機関内の他職種の連携 (2) 医療機関と地域との連携 3. 小児看護の実際 (1) 小児科外来・病棟 ① 病院を受診する小児とその家族の心理 ② 小児看護の実際 (2) 病児保育 ① 病児と家族の心理 ② 病児保育の実際 4. 予防医療 (1) 人間ドック (2) 健康教育 ① 運動・栄養指導 ② 行動変容と心理 (3) 予防接種 (4) 内視鏡・レントゲン等検査 5. まとめ (1) 医療機関における小児看護の実際 (2) 医療機関を受診する小児とその家族の心理				
事前・事後学習について	事前・事後学習については臨床診断実習オリエンテーションで示します。養護教諭として必要となる小児看護と予防医学の分野を、実際の病院において学びます。意欲的に取り組んでください。				
準備学習に必要な時間	特に指示なし				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	40	診察、療養および臨床医学の理解、実習への関心・意欲・態度		
	レポート	30	実習内容の理解：臨床診断実習記録		
	その他	30	実習内容の理解：カンファレンスでの発言		
受講上の注意・課題のフィードバック	実習中に生じた疑問等はそのままにせず書きとめておき、最終日のカンファレンスで提示してください。				
使用テキスト	臨床診断実習要項				
参考書	こどもの病気の地図帳 鴨下重彦・柳澤正義、講談社 病気の地図帳 山口和克 講談社				

対象学生	養護教育専攻 12		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	小児看護論	Y12018	前期	講義	2	必修				
担当教員	三浦 弥生									
授業の概要	小児期（特に学童期、思春期の子どもたち）におこりやすい疾病とその看護および予防について理解を深める。 学校の健康診断時に注意すべき疾病及び異常、感染症の予防及びアレルギーへの対応について理解を深める。									
到達目標	1. 小児期（特に学童期、思春期の子どもたち）におこりやすい疾病とその看護および予防について説明できる。 2. 学校の健康診断時に注意すべき疾病及び異常、感染症の予防及びアレルギーへの対応について説明できる。									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常①：整形外科疾患 2. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常②：眼科関連 3. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常③：耳鼻咽喉科関連 4. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常④：皮膚科関連 5. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常⑤：歯科口腔外科関連 6. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常⑥：寄生虫症 7. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常⑦：内科的疾患(1)循環器の疾患 8. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常⑧：内科的疾患(2)腎臓の疾患 9. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常⑨：内科的疾患(3)糖尿病 10. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常⑩：内科的疾患(4)その他の主な内科的疾患 11. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常⑪：産婦人科疾患 12. 健康診断時に注意すべき疾病及び異常⑫：精神疾患 13. 感染症の予防①：学校における感染症への対応 14. 感染症の予防②：学校における結核対策 15. アレルギーへの対応									
事前・事後学習について	学校保健実務必携第 2 編学校における保健管理の第 5 章「健康診断時に注意すべき疾病及び異常」、第 9 章「感染の予防」、第 10 章「アレルギーへの対応」を授業の前後で通読し内容をよく理解しておくこと。									
準備学習に必要な時間	1～2 時間を要す									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	80	小児の疾患およびその看護に対する理解							
	実践	10	授業中に与えられた課題に対する適切な説明							
	レポート	0								
	その他	10	授業態度・意欲							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業中に課題を提示し、それについて説明して貰います。説明していてわからなくなった部分は、その都度質問してください。その場で解説します。理解を深めていきましょう。									
使用テキスト	学校保健実務必携第 4 次改訂版 第一法規									
参考書	子どもの病気の地図帳 講談社 日本学校保健会：学校心臓検診の実際/学校検尿のすべて/学校アレルギー疾患に対する取り組みガイドライン									

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	成人看護論 Y12019	後期	講義	2	必修
担当教員	服部 さゆり・平井 義一				
授業の概要	成人期や成人期にある人の特徴を学び、成人期に起こりやすい健康上の問題についての理解を深める。また、成人看護に有用な諸理論についても学び、保健活動に必要な基本的知識を習得する。				
到達目標	1. 成人期の特徴が理解できる 2. 成人期にある人の特徴が理解できる 3. 成人期に起こりやすい健康上の問題が理解できる 4. 授業で取り上げた成人看護に有用とされる理論が理解できる				
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
		○			
授業計画	1. 成人期とは 2. 成人期にある人の特徴 3. 成人期にある人の理解①（生活者として） 4. 成人期にある人の理解②（健康観） 5. 成人期にある人の理解③（学習の特徴） 6. 成人保健の動向① 7. 成人保健の動向② 8. 成人期に起こりやすい健康上の問題①（生活習慣に関連する健康障害） 9. 成人期に起こりやすい健康上の問題②（ワーク・ライフ・バランス、職業に関連する健康障害） 10. 成人期に起こりやすい健康上の問題③（生活ストレスに関連する健康障害） 11. 成人期に起こりやすい健康上の問題④（セクシュアリティとジェンダーに関連する健康障害） 12. 成人期に起こりやすい健康上の問題⑤（更年期にみられる健康障害） 13. 成人看護に有用な諸理論①（セルフケア：オレムの看護理論） 14. 成人看護に有用な諸理論②（適応：ロイ適応看護モデル） 15. 成人看護に有用な諸理論③（自己効力：バンデューラ概念）				
事前・事後学習について	事前に授業計画に沿ってテキストを読み、自己学習して授業に臨んでください。				
準備学習に必要な時間	30分～1時間程度は必要です。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	50	到達目標の内容の理解度		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	50	レポート、プレゼンテーション等		
受講上の注意・課題のフィードバック	成人期にある人々の健康について深く考え、討論していきましょう。意見を求めたり、討論したりすることが多い授業です。自由に、そして積極的に発言することを求めます。				
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 国民衛生の動向(該当年度) 厚生労働統計協会				
参考書	適宜支持する				

対象学生	養護教育専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	教育職の研究	Y21020	前期	講義	2	必修				
担当教員	中井 文彦									
授業の概要	教師になる意義について、教育法規や学校教育への期待などの視点から多角的に考え合い、教職に就くための基本的事項を学び、教師になる適性や意欲、専門性を身に付けていく。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に求められる資質能力・使命感、教員の役割、教育公務員としての身分と服務、職務内容などについて理解を深め、今求められる教師像について考えることができる。</li> <li>・教員に求められる資質能力と学校を取り巻く社会の在り方を踏まえたうえで、自らの理想とする教師像を語るすることができる。</li> <li>・児童生徒の前に立つ自分を見つめ直し、養護教諭としての専門性を自覚することができる。</li> </ul>									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○	○	○							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本講義のねらい・現代の教師に求められているもの</li> <li>2. 教育を取り巻く社会と教師になる意義</li> <li>3. 教員の研修と服務</li> <li>4. 学校組織と学校の組織力、教師の協働性</li> <li>5. 学校安全と危機管理</li> <li>6. 教育関係法規の基礎</li> <li>7. 学校教育に関する法規</li> <li>8. 教職員に関わる法規</li> <li>9. 学習指導要領の変遷と現行の学習指導要領</li> <li>10. 我が国の教育改革の動向</li> <li>11. 生徒指導</li> <li>12. 児童生徒、保護者への対応</li> <li>13. 他との連携と養護教諭の役割</li> <li>14. 養護教諭の専門性</li> <li>15. 私が目指す教師像（総括）</li> </ol>									
事前・事後学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：授業計画を参考に、次の授業に関連する項目について調べる。</li> <li>・事後学修：授業での配付資料を読み返し、授業で紹介された参考文献等を読む。</li> <li>・子どもの前に立つ教師のあり方を常に考え、新聞やインターネットを通じて日頃から教育に関する情報を収集して授業に持ち寄る。</li> </ul>									
準備学習に必要な時間	・事前・事後学修に要する時間（1時間程度）									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	100	主体的な学習、思考・判断・表現（発言、振り返りシート等）							
受講上の注意・課題のフィードバック	・わからない事があったら質問してください。									
使用テキスト	教育小六法 2024年版 学陽書房									
参考書	新教育職の研究 2009年 田井康雄編 学術図書出版									

対象学生	養護教育専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	教育基礎論 Y21021	前期	講義	2	必修
担当教員	奥井 現理				
授業の概要	教育の原理、教育の歴史、教育の方法、現代教育の話題など、広範囲にわたる教育学の基礎を学び、拡散しがちな教育学の学修成果を補充・深化・統合します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の本質・基本概念及び目標などを理解することができる。</li> <li>・地域、家庭、学校等における教育を、さまざまな位相（教育改革、教育制度、学校経営、社会教育・生涯学習）から考察・理解することができる。</li> <li>・家庭・社会・学校の広いをみすえ過去・現代（西洋・日本）における教育（思想・実践）を学び、現代における教育の課題や未来の教育の在り方を考察することができる。</li> </ul>				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の基本原則（1）なぜ教育が必要なのか</li> <li>2. 教育の基本原則（2）教育の意味・役割</li> <li>3. 教育の基本原則（3）教育の目的・目標</li> <li>4. ヨーロッパにおける教育の理念と歴史（1）古代から中世</li> <li>5. ヨーロッパにおける教育の理念と歴史（2）ルネサンスから近代</li> <li>6. ヨーロッパにおける教育の理念と歴史（3）近代から現代</li> <li>7. 日本における教育の理念と歴史（1）古代から近世</li> <li>8. 日本における教育の理念と歴史（2）近代</li> <li>9. 日本における教育の理念と歴史（3）現代</li> <li>10. 教育の理念と歴史から方法の基礎理論へ</li> <li>11. 教育方法の基礎理論（1）教育方法論の基礎原理と歴史</li> <li>12. 教育方法の基礎理論（2）教育課程論の基礎原理と歴史</li> <li>13. 教育方法の基礎理論（3）教育実践・技術の諸相</li> <li>14. 現代教育での展開（1）公教育</li> <li>15. 現代教育での展開（2）社会教育・生涯学習</li> </ol>				
事前・事後学習について	授業の終わりに、毎回のワークシート提出を求めます。これは次回に返却します。返却されたワークシートをノートに貼り付け、考察の手がかりとして下さい。 毎回、知識ワークを行います。				
準備学習に必要な時間	各自、必要ならば 90 分程度参考書等を学習してください。毎回提示される知識ワークを復習するのもいいでしょう。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	知識ではなく思考・理解を問うペーパーテストを行います。		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。				
使用テキスト	教育学の基礎と展開 第三版 相澤伸幸著 ナカニシヤ出版				
参考書	適宜指定する。				

対象学生	養護教育専攻 12		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	教育課程研究	Y21024	後期 (隔年)	講義	2	必修			
担当教員	中井 文彦								
授業の概要	学校における教育活動の全体計画である教育課程の編成方法を理解し、その基準となる学習指導要領について、変遷と現状を把握し、諸外国の教育課程の特色も学修していく。さらに、カリキュラム・マネジメントを行う意義について考えるなど、我が国の教育課程の方向性を考え合う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の意義を理解し、各学校で編成する際の基礎的知識や方法を習得することができる。</li> <li>・学習指導要領の思想や制度、変遷と現状、諸外国の教育課程の特色を理解することができる。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントを行う意義や在り方を考え、我が国の教育課程の方向性を考えることができる。</li> </ul>								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
	○	○	○						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本講義のねらいと概要（教育課程編成の意義と役割・機能）</li> <li>2. 教育課程の基本原則（カリキュラムの諸類型）</li> <li>3. 教育課程の思想・歴史（顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム）</li> <li>4. 学習指導要領の変遷 1（戦後教育改革と学習指導要領の作成）</li> <li>5. 学習指導要領の変遷 2（高度成長期から平成 10 年まで）</li> <li>6. 現行の学習指導要領の概要（平成 29 年度改正）</li> <li>7. 教育改革の動向と教育課程の開発（学力調査結果と主体的な学びの重視）</li> <li>8. 教育課程編成の基本事項（スコープ・シーケンス等）</li> <li>9. 現在日本が抱える教育課程の課題解決の道（諸外国の教育課程と比較して）</li> <li>10. 現行教育課程の意向と我が国のこれからの教育課程</li> <li>11. 教育課程の実践と評価（PDCA サイクル）</li> <li>12. カリキュラム・マネジメント</li> <li>13. 教科外学習（総合的な学習の時間・特別活動・道徳教育・その他）</li> <li>14. 教科・領域・学年をまたぐ教育課程環境の整備</li> <li>15. 今後の教育課程をどうするか（総括）</li> </ol>								
事前・事後学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：授業計画を参考に、次の授業に関連する項目について調べたり、自分の意見をまとめたりする。</li> <li>・教育に関する話題に敏感になり、新聞スクラップやインターネット情報を授業に持ち寄る。</li> <li>・事後学修：授業での配付資料を読み返し、日本の教育の理想像について自分の意見をまとめる。</li> <li>・授業で紹介された参考文献等を読む。</li> </ul>								
準備学習に必要な時間	・事前・事後学修に要する時間（1 時間程度）								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	30	知識・技能						
	その他	70	主体的な学習、思考・判断・表現（発言、振り返りシート等）						
受講上の注意・課題のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の教育や専攻科としての専門性について、関心や問題意識を常に養っておく。</li> <li>・現場の養護教諭とも時に協働しつつ、連携をしていくように努力する。</li> </ul>								
使用テキスト	田中耕治 他著『新しい時代の教育課程』第 5 版（有斐閣アルマ、2023 年）								
参考書	特に指定しない								

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	道徳教育・特別活動研究 Y22026	前期	講義	2	必修
担当教員	奥井 現理				
授業の概要	1回から第8回までが道徳教育、第9回から第15回までが特別活動と、取り扱う内容は分かれているように見えますが、これは、じつは一体のものであります。総合的な学習の時間をはじめとする他領域の教育活動との連携を視野にいれつつ、道徳の本質や道徳教育の目標といった内容から、特別活動の目標・実践にいたるまで、教育を深く理解し、自らが教育者としてそれを担うことを強く意識しつつ、学習は進められます。 さらに、他領域の知識ワークをも行うことを通して、多面的多角的に道徳や特別活動の理解を深めてゆきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の目標や内容をふまえたうえで、道徳の本質・道徳教育の歴史・道徳教育の課題・子どもの心身の発達及び道徳性の発達などを理解することができる。</li> <li>・学習指導要領の目標や内容をふまえたうえで、特別活動の特質・内容・課題を理解することができる。</li> <li>・総合的な学習の時間との連携を視野に入れた特別の教科道徳・特別活動の教育活動を、授業をする者、支援する者等の様々な視点で構想することができる。</li> </ul>				
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
	○		○		
授業計画	第1回 特別の教科道徳の位置づけ（総合的な学習の時間等、他領域との関連） 第2回 特別の教科道徳の目標と道徳教育の目標（道徳性の考察） 第3回 道徳教育の理論（道徳の本質） 第4回 道徳教育の理論（道徳性、子どもの心身の発達をふまえた道徳性発達の理解） 第5回 道徳教育の理論（実践を視野にいれた概念整理） 第6回 道徳教育の実践（教育活動全体を広く見渡し、コミット可能な教育活動をみいだす） 第7回 道徳教育の実践（主体的・対話的で深い学びを実現する教育方法の検討） 第8回 道徳教育の実践（道徳性の評価） 第9回 特別活動の目標（諸分野の位置づけ整理および総合的な学習の時間等、他領域との関連） 第10回 特別活動の目標（諸目標及び育成されるべき資質・能力の整理） 第11回 特別活動の理論・実践（教育活動全体から、コミット可能な教育活動をみいだす） 第12回 特別活動の理論・実践（学習指導要領の留意事項をふまえた学習方法の検討） 第13回 特別活動の理論・実践（教育活動・指導の、カリキュラム上の位置づけ） 第14回 特別活動の理論・実践（他領域との連携、家庭や地域・外部との連携） 第15回 特別活動の評価（学級担任との連携、子どもの資質・能力評価、授業評価）				
事前・事後学習について	毎回、知識のワークを課します。それを通じて思考・理解を豊かにする授業です。毎回課す知識ワークの復習をするといいいでしょう。				
準備学習に必要な時間	学習指導要領の本文（道徳・特別活動）をよく読んでおいてください。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100	知識ではなく思考・理解を問うペーパーテストを行います。		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	私語は厳禁です。				
使用テキスト	道徳と特別活動の載っている学習指導要領（解説編でもいいです）を用意するといいいでしょう。すでに持っているもので構いません。				
参考書	適宜指定します。				

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	生徒指導・教育相談論 Y22027			1年後期	講義	2	必修		
担当教員	黒岩 長造								
授業の概要	学校内で展開される生徒指導・教育相談の実際について、様々な事例（学校不適応児童、様々な障害児童、不登校児童等）を紹介しながら、学ぶ。生徒指導の目的と内容、生徒理解、進路指導、集団・個別指導、問題行動の指導等について、事例の検討を加えながら、基本的考え方を学ぶ。さらに学校における教育相談の役割とその実際について教育相談の基本的な考え方となる、カウンセリングの理論・方法・内容の解説を加えながら検討する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素質を身につける。</li> <li>・幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。</li> </ul>								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
	○	○	○						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導、教育相談の意義と課題</li> <li>2. 各教科やその他の活動における生徒指導、教育相談の意義</li> <li>3. 生徒指導、教育相談における心理学的基礎知識</li> <li>4. 集団・個別指導、教育相談における方法原理</li> <li>5. 不適応・問題行動への個別指導（生徒の発するシグナルの把握）、</li> <li>6. 生徒指導体制、教育相談体制について</li> <li>7. カウンセリングマインドの理解</li> <li>8. カウンセリングの基礎的姿勢と技法</li> <li>9. 学校組織と連携についての理解</li> <li>10. 事例検討：生活習慣の確立と規範意識の醸成、校則等に関する法令について</li> <li>11. 事例検討：自己肯定感の育成</li> <li>12. 事例検討：暴力行為、非行</li> <li>13. 事例検討：いじめ等</li> <li>14. 事例検討：不登校等</li> <li>15. 他機関との連携</li> </ol>								
事前・事後学習について	新聞ニュース等で、学校現場の情報を取得しておいてください。								
準備学習に必要な時間	授業に集中できるように事前に毎回1時間程度プリントを読んで理解しておいてください								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	100	毎回授業後に提出する小レポート						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題に対する添削を行い返却します。								
使用テキスト	事例から学ぶ児童生徒への指導と援助								
参考書	生徒指導提要（最新版）文部科学省/著 教育図書								

対象学生	養護教育専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	養護特別実習 Y33029	通年	実習	1	必修
担当教員	澤田 有香・小平 寿美子				
授業の概要	本科での養護実習を振り返り、専攻科では一週間（5日間）の校種を変えての養護実習を行う。本実習は実務家教員の授業で養護教諭免許を有する教員が担当する科目である。養護教諭の実務家としての視点、学校現場での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。				
到達目標	本科での養護実習を振り返り、自己の課題について主体的に取り組む。また校種間の違いを実際に学び、より深く理解する。さらなる資質能力と実践力を身に付ける。				
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
	○	○	○		
授業計画	<p>1. 養護特別実習の目標</p> <p>①学校教育活動や児童生徒理解を深める</p> <p>②学んだ事柄を実際に試みる</p> <p>③実践的研究の基礎的能力をさらに培う</p> <p>④自らの能力・適性を自己評価し、必要な学習課題を得る</p> <p>2. 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育計画と学校組織についての理解</li> <li>・学校保健活動と保健室や養護教諭の役割についての理解</li> <li>・児童生徒の健康課題と組織的対応の理解</li> <li>・保健管理体制の理解</li> <li>・保健室経営計画・執務計画</li> <li>・保健室来室者への対応</li> <li>・保健室整備・備品管理</li> <li>・健康教育の実践と研究</li> <li>・実習の記録とまとめ</li> <li>・自己評価</li> </ul>				
事前・事後学習について	自己の課題を明確にし、事前の準備をしっかりと行い丁寧な実習を心がけてください。実習の振り返りを行い自己の課題を見つけ、課題解決に向けて学修を進めます。事前・事後に保健室ボランティアを体験することで養護教諭の執務について理解を深めることができます。				
準備学習に必要な時間	各自必要な時間をかけて準備する。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	97	実習校の評価による		
	レポート	0			
	その他	3	実習後の報告及びまとめ		
受講上の注意・課題のフィードバック	本科での養護実習の経験と反省を生かし、課題を明確にして、積極的に実習に臨んでください。				
使用テキスト	特になし				
参考書	学校保健実務必携など必要に応じて参照のこと。				

対象学生	養護教育専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	特別実習指導 Y32030	通年	演習	2	必修
担当教員	安富 和子				
授業の概要	一週間の実習を行うにあたり、本科の実習の上に立って、自分の課題をしっかりと持ち、事前学習と実習校の養護教諭との連絡を密にし、専門的な学びを深める。実習後は新たに発生した問題を捉え直し整理し先に学んだ事柄をさらに深めたり改善させたりして、発展させていく。また養護学校の1日体験・高校での1日体験・保育園での1日体験など現場での体験を積み重ねて養護教諭としての実践力を身に付ける。 本講義は実務家教員の授業で、養護教諭免許を有する教員が担当する科目である。養護教諭の実務家としての視点、学校現場での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。				
到達目標	1 週間の養護実習・養護学校の1日体験・高校の1日体験・保育園の1日体験等現場での体験を通して、養護教諭としての実践力を身につける				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
			○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本科での実習の振り返りをしその中から自分の更に深めたい課題を明確にする・養護実習について実習校の決定 自分の課題に添って事前学習の計画を立て発表する・前期の計画 ・令和8年度の就職状況</li> <li>2. 養護教諭の執務についての復習①</li> <li>3. 養護教諭の執務についての復習②</li> <li>4. 歯科指導の実際について 事前訪問について</li> <li>5. 保育園実習についての打合せ</li> <li>6. 保育園実習①</li> <li>7. 保育園実習②</li> <li>8. 保育園実習③</li> <li>9. 保育園実習④</li> <li>10. 保育園実習の報告会 レポートの作成と提出</li> <li>11. 養護教諭への道・教員採用試験の振り返り</li> <li>12. 心肺蘇生法とAEDの使用について・「アスカモデル」校内連携体制について</li> <li>13. 性教育 二次性徴と初経指導について、</li> <li>14. 養護学校実習①</li> <li>15. 前期の反省</li> <li>16. 後期の計画・事前訪問報告会</li> <li>17. 11月の高校実習打ち合せ・養護実習の準備</li> <li>18. 高校実習①</li> <li>19. 高校実習②</li> <li>20. 高校実習③</li> <li>21. 高校実習④</li> <li>22. 高校実習の報告会・レポートの作成と提出 養護実習の報告会</li> <li>23. 11月の養護学校の実習について打合せ</li> <li>24. 養護学校実習②</li> <li>25. 養護学校実習③</li> <li>26. 養護学校実習④</li> <li>27. 養護学校実習の報告会 レポートの作成と提出</li> <li>28. 咀嚼指導と歯科指導の実際について</li> <li>29. 長野県養護教諭育成指標について、4年間であつた力と養護教諭の職務についての話し合い</li> <li>30. 4月から養護教諭として勤務する時の心構えと準備について・後期の反省</li> </ol>				
事前・事後学習について	養護特別実習では自分の課題を明確にし、課題に添って事前の学習をし、実習校の養護教諭と連絡を密にしながらか進めていく。課題について学習したことを、児童・生徒に指導できる機会を取っていたように積極的に働きかけてください。周りの人とのコミュニケーションを取って仕事をしていくことが、養護教諭には欠かせない力となっています。積極的に自分で道を切り開いて進んで行くことを望んでいます。また課題研究のために実習校以外の学校を訪問し養護教諭等の指導をうけることも可能ですから安富に相談してください。				
準備学習に必要な時間	体験実習では準備を十分に行い、積極的に学習する。また、実習校や実習園等について事前情報を得るなどして実習に臨む。 事前学習 20分				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	80	知識・理解・判断力・表現力・意欲		
	レポート	10	報告書・日誌 レポートについては添削して返却します。		
	その他	10	授業に取り組む積極的な態度		
受講上の注意・課題のフィードバック	自分の実習の目標を明らかにし、実習を受けてくださる学校や養護教諭、施設等に感謝の気持ちを持ち実習に臨む。不明なことは聞き更に学習を深めるきっかけとする。 保健指導をする場合は、指導案や指導内容の検討を十分に行い、校種や年齢に応じた対応で実習に臨む。				
使用テキスト	その都度用意します				
参考書	適宜指示します				

対象学生	養護教育専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	教職実践演習（養護教諭） Y33031	後期	演習	2	必修
担当教員	澤田 有香・稲川 英嗣				
授業の概要	教職の意義や教員の役割、職務内容、児童・生徒に対する責務等を確認し、事例研究やロールプレイングを通して状況に応じた対応や児童・生徒指導の在り方等を確認する。また、養護特別実習の経験を基に保健室経営案を作成して実際の執務に備える。さらに担任の役割や実務、人間関係づくり、集団指導力等を確認する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義や教員の役割、職務内容、児童・生徒に対する責務がわかる。</li> <li>・状況に応じた対応や児童・生徒指導の在り方がわかる。</li> <li>・学校関係者の連携を考慮した保健室経営案が作成できる。</li> </ul>				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進行についての説明、養護教諭の専門性と優れた養護教諭（担当：澤田有香）</li> <li>2. 学校保健の課題と養護教諭としての対応（担当：澤田有香）</li> <li>3. 事例研究Ⅰ「保健室経営と健康診断・健康相談」（担当：澤田有香）</li> <li>4. 事例研究Ⅱ「保健室経営と保健指導」（担当：澤田有香）</li> <li>5. 事例研究Ⅲ「保健室経営と健康課題」（担当：澤田有香）</li> <li>6. 事例研究Ⅳ「保健室経営と健康危機管理」（担当：澤田有香）</li> <li>7. 事例研究Ⅴ「保健室経営と学校・家庭・地域との連携」（担当：澤田有香）</li> <li>8. 「保健室経営案の作成と活用の実際」（討論）（担当：澤田有香）</li> <li>9. ロールプレイングⅠ「いじめ・虐待」（担当：稲川英嗣）</li> <li>10. ロールプレイングⅡ「保健室登校・不登校」（担当：稲川英嗣）</li> <li>11. ロールプレイングⅢ「健康相談（児童・生徒及び保護者）」（担当：稲川英嗣）</li> <li>12. 「保健学習指導案の作成と活用の実際」（討論）（担当：稲川英嗣）</li> <li>13. 模擬授業Ⅰ「小学校保健領域、中学保健分野・高校保健」（担当：稲川英嗣）</li> <li>14. 模擬授業Ⅱ「小・中・高校 特別活動・総合的な学習の時間」（担当：稲川英嗣）</li> <li>15. 「すぐれた養護教諭」「授業まとめ」（担当：稲川英嗣）</li> </ol>				
事前・事後学習について	授業の展開に応じてその都度指示します。				
準備学習に必要な時間	指示によって異なる				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	50	ロールプレイング・模擬授業の計画・実施への取り組み		
	レポート	20	保健室経営計画の作成		
	その他	30	事例研究への取り組み		
受講上の注意・課題のフィードバック	ロールプレイング等意欲的に臨んでください。				
使用テキスト	「学校教育の現代的課題と養護教諭」 河田史宝監修 大学図書出版				
参考書	学校保健の課題とその対応(令和2年度改訂) 公財 日本学校保健会 小学校学習指導要領解説 体育編(最新版) 文部科学省 中学校学習指導要領解説 保健体育編(最新版) 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編(最新版) 文部科学省				

対象学生	養護教育専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	保健統計演習	Y21032	後期	演習	2	必修			
担当教員	宮澤 傳二								
授業の概要	保健統計学の概念を理解し、学校保健、児童生徒等の健康教育に役立てる基礎的能力を養う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療分野で利用される保健統計学の基礎を理解する。</li> <li>データの特徴に応じた保健統計的手法を理解する。</li> </ul>								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス、保健統計学の概要、国民保健の概要</li> <li>データの整理とグラフ表示</li> <li>代表値</li> <li>散布度</li> <li>相関と相関係数・回帰直線</li> <li>確率・順列・組み合わせ</li> <li>確率分布</li> <li>母集団の推定（1）標本抽出法・母平均の推定・母比率の推定</li> <li>母集団の推定（2）母相関係数・区間推定・標本設計</li> <li>仮説検定（1）母平均 母比率 二項検定</li> <li>仮説検定（2）平均値に関する検定（t分布とt検定）、比率の差の検定</li> <li>仮説検定（3）ノンパラメトリック検定（適合度の検定と独立性の検定）</li> <li>分散分析法</li> <li>情報処理・管理の基礎 Microsoft Excel を利用した情報処理の基礎</li> <li>総合的な問題演習</li> </ol>								
事前・事後学習について	事前：テキストを読み予習しておく。 事後：レポート課題等で復習する。								
準備学習に必要な時間	1時間前後								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	40	保健統計学に対する理解度						
	実践	40	演習内容の理解度と取り組み状況						
	レポート	20	課題への取り組み状況と完成度						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	レポート課題は、添削して返却します。								
使用テキスト	縣俊彦著、やさしい保健統計学、南江堂 改訂第5版 増補、2019年								
参考書	丸井英二著、最新保健学講座6 疫学・保健統計、メヂカルフレンド社 福富和夫他著、ヘルスサイエンスのための基本統計学、南山堂								

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	特別支援教育研究 Y12033	前期	講義	2	必修
担当教員	黒岩 長造				
授業の概要	特別に支援を必要とする子どもたちが家庭だけで養育されていた時代から、児童福祉施設や学校現場、医療機関などで個々の状態において教育がなされるようになってきた。本授業では特別支援が必要な教育とは何かについて考察し教育現場で出会うことの多い特別支援が必要な幼児、児童及び生徒の発達、特性について理解する。それに基づき指導計画の立案、指導方法を考察する。また、関係機関との連携、医療機関との協働、について事例を通して体験的に学ぶ。				
到達目標	幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教育者や関係機関と連携しながら組織的に対応するために必要な知識や支援方法を理解する。特別支援が必要な幼児、児童及び生徒の障害の特性及び生徒の心身の発達を理解する。特別支援が必要な幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育に関する制度の理念やしぐみについて</li> <li>2. 発達障害児、軽度知的障害児の発達について</li> <li>3. 発達障害児に対する支援の方法について</li> <li>4. 軽度知的障害児に対する支援の方法について</li> <li>5. 視覚障害児の学習上、生活上の困難と支援の方法について</li> <li>6. 聴覚障害児の学習上、生活上の困難と支援の方法について</li> <li>7. 知的障害児の学習上、又は生活上の困難と支援の方法について</li> <li>8. 肢体不自由児の学習上、生活上の困難と支援の方法について</li> <li>9. 病弱児の学習上、又は生活上の困難と支援の方法について</li> <li>10. 通級による指導及び自立活動について</li> <li>11. 個別の指導計画について</li> <li>12. 個別の教育支援計画について</li> <li>13. 特別支援教育コーディネーターについて</li> <li>14. 障害以外に特別支援の必要な幼児、児童及び生徒について</li> <li>15. 障害児観について</li> </ol>				
事前・事後学習について	障害の正しい理解、理解に基づく教育、保護者支援、関係機関と連携がキーワード、現場では様々な障害のある子どもに出会う。授業前には、これまでの実習で出会った子どもの姿について整理しておくこと。授業後には多様な障害について授業で使用した資料を読み直し、学習を振り返ること。				
準備学習に必要な時間	配布する様々な資料を読み、理解しておくこと。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	100	毎回の授業終了時に提出する小レポート		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回の資料をよく読み、理解すること。レポートを返却するので、朱書きの部分を振り返ること				
使用テキスト	特別支援教育概論 建帛社				
参考書	そのつど紹介します				

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	健康教育研究 Y32034	前期	演習	2	必修
担当教員	澤田 有香				
授業の概要	学校における健康教育において特に重要な位置づけにあるのは、保健教育での「保健の指導」である。児童生徒の心を揺さぶり、行動変容につなげる「保健の指導」の進め方について、健康行動理論を踏まえた実践を通して学ぶ。				
到達目標	①児童生徒の健康の保持増進や望ましい発育発達を促進するためには、健康的な生活行動を形成することが大切であることを再確認した上で、学校における健康教育の重要性を理解し、計画を立て、実践することができる。 ②教職員に対しても、健康的な生活行動の重要性を啓発し、校内で健康教育を推進することができる。				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>「学校教育の中での健康教育、健康教育の変遷」 学校教育の中で、健康教育はどのように位置づけられているかを理解する。</li> <li>「自己実現を目指す健康教育」 行動変容を支える「動機づけ・意欲」、行動変容ステージモデルの考え方</li> <li>「動機づけを高めるために」 動機づけを高めるポイント、「腑に落ちる理解」の引き出し方、自己効力感・自尊感情を高める</li> <li>「行動実践のPDCA サイクル」 挑戦意欲を高める目標設定、セルフモニタリング、セルフトーク</li> <li>意欲を高める環境と支援 自律性の支援、環境づくりとヘルスプロモーション</li> <li>保健教育の実際 特別活動における保健の指導と教科における保健教育の目的、指導案の書き方</li> <li>保健の授業の進め方 指導案作成</li> <li>小学校体育科保健領域での授業の実際（模擬授業）</li> <li>小学校学級活動での授業の実際（模擬授業）</li> <li>小学校学級活動での授業の実際（模擬授業）</li> <li>中学校保健体育保健分野での授業の実際（模擬授業）</li> <li>中学校保健体育保健分野での授業の実際（模擬授業）</li> <li>中学校学級活動での授業の実際（模擬授業）</li> <li>高等学校科目保健での授業の実際（模擬授業）</li> <li>まとめ</li> </ol>				
事前・事後学習について	授業前にテキストを一読して授業に臨んでください。				
準備学習に必要な時間	30分～1時間程度要する。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	80	技能・判断力・表現力		
	レポート	0			
	その他	20	関心・意欲・受講態度		
受講上の注意・課題のフィードバック	諸理論を実践に結び付ける取組です。それぞれが主体的に取り組んでください。互いに積極的にフィードバックし合い、最終は自己評価します。				
使用テキスト	「行動科学を生かした集団・個別の保健指導」戸部英之監修・齋藤久美ほか著 少年写真新聞社				
参考書	特に指定なし				

対象学生	養護教育専攻 12	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	青少年体験活動演習 Y31036	集中	演習	1	
担当教員	齋藤 新				
授業の概要	こどもをはじめとした青少年に、安全で効果的な体験活動（自然体験活動・生活体験活動）を実施するための初歩的な知識や技術を身につける。そのために、下伊那郡泰阜村で開催される「信州こども山賊キャンプ」に、ボランティアリーダーとして実習参加する（3泊4日程度）。この授業をすべて修了すれば、「国立青少年教育振興機構」（東京）が発行する「自然体験活動リーダー（NEALリーダー）」資格が付与される。				
到達目標	講義と校外実習を通して、未来を生きるこどもたちに必要な感性や価値観、暮らしのあり方などについて考えるとともに、安全で効果的な体験活動（自然体験活動・生活体験活動）を十するための初歩的な知識や技術を理解し、習得する。				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
		○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・自然体験活動の考え方 資格取得の流れと、自然体験活動の考え・理念を理解する。</li> <li>2. 対象者の理解1・体験活動の技術1 対象者（参加者）の情報を得ることの必要性和、情報を得る下段を具解する。</li> <li>3. 安全管理1 自然体験活動のリスクの概略を、ワークショップを通じて理解する。</li> <li>4. 信州こども山賊キャンプ実習（対象者理解2） 実際のこどもキャンプでの実習を通して、こどもたちと接する際の注意点について学ぶ</li> <li>5. 信州こども山賊キャンプ実習（技術2） 実際のこどもキャンプでの実習を通して、野外調理などの体験活動の技術を学ぶ</li> <li>6. 信州こども山賊キャンプ実習（指導法1） 実際のこどもキャンプでの実習を通して、こどもへの効果的な指導法の基礎を学ぶ</li> <li>7. 信州こども山賊キャンプ大習（指導法2） 実際のこどもキャンプでの実習を通して、こどもへの効果的な指導の応用を学ぶ</li> <li>8. 信州こども山賊キャンプ実習（指導法3） 実際のこどもキャンプでの実習を通して、こどもへの効果的な指導法のあり方についてディスカッションをする</li> <li>9. 信州こども山賊キャンプ実習（安全管理2） 実際のこどもキャンプでの実習を通して、「予見義務」と「回避義務」について理解する。</li> <li>10. 信州こども山賊キャンプ実習（安全管理3） 実際のこどもキャンプでの実習を通して、野外におけるファーストエイドと緊急時対応マニュアルなどの運用の必要性を理解する。</li> <li>11. 信州こども山賊キャンプ実習（自然と人間の共生） 実際のこどもキャンプでの実習を通して、自然と共存し、地域の風土と文化を尊重する教育活動について理解する。</li> <li>12. 青少年教育の理解 青少年の現代的課題、青少年における体験活動の意義について理解する。</li> <li>13. 学校教育における体験活動の理解 学校教育における体験活動の後、学習指導要領における体験活動の位置づけ</li> <li>14. 自然体験活動の企画・運営 企画の立て方を理解し、効果的な体験活動に必要なプログラム作成の基礎を学ぶ</li> <li>15. まとめ、振り返り授業で得られた成果をまとめ、全員で共有することを通して学びを深める。</li> </ol>				
事前・事後学習について	小中学生の教育関連、並びに青少年の体験活動に関する報道資料（新聞、ニュース報道）などをできるだけ読んでおくこと。また、授業内で扱われた内容に関する情報収集に努めること。				
準備学習に必要な時間	報道資料などを読み込む（適宜 30 分程度） 情報収集（毎回 30 分程度）				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	40			
	実践	30	授業毎の参画意識と態度を総合的に評価する		
	レポート	30	授業終了後のリアクションペーパーを重要視する		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	校外実習がメインの演習です。他大学の学生とともに過ごす時間は、多様な学びを手にする貴重な機会です。積極的な参加姿勢が求められます。				
使用テキスト	授業にて教材を指示する。				
参考書	適宜紹介				

対象学生	養護教育専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	修了研究 I Y31037			前期	演習	2			
担当教員	澤田 有香・安富 和子・三浦 弥生								
授業の概要	レポート・論文作成の一連の流れとそれに必要な基礎知識を学ぶ。 実務経験のある教員（保健師・看護師・養護教諭）による科目								
到達目標	①論文作成の手順を理解できる。 ②文献等の入手方法を理解できる。 ③先行研究等から自らの研究課題を明らかにすることができる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○	○						
授業計画	1. 学位認定のレポート作成について 2. ～5. レポート・論文の基本 ①書き方の基本ルール ②短いレポートの作成 1 ③短いレポートの作成 2 ④レポート・論文を批判的に読む 6. ～8. 文献・資料の集め方 ①文献検索の方法 ②文献検索の実際 9. ～12. テーマと構成の確認 ①テーマ ②構成 ③文献検索 13. 執筆スケジュール 14～15. 先行研究・背景のプレゼンテーション								
事前・事後学習について	文献検索、先行研究レビューや学生個々の課題の枠組みを作成するなどの事前・事後学習を課します。自分から進んで取り組みましょう。								
準備学習に必要な時間	自分の課題に沿って調査研究を計画的に実施する。 60 分程度を要する。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	20	関心・意欲・態度・技能						
	レポート	80	判断力・思考力						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	自分の課題に沿って情報を集め、早め早めに計画的にレポート作成を進めてください。								
使用テキスト	「思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版」井下 千以子著 慶應義塾大学出版会								
参考書	適宜指示する。								

対象学生	養護教育専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	修了研究Ⅱ Y32038	後期	演習	2	
担当教員	澤田 有香				
授業の概要	レポート・論文の作成をすることでその実際を学ぶ。媒体を用いて効果的なプレゼンテーションについても合わせて学ぶ。				
到達目標	1. 研究課題に基づいたレポートを書くことができる。 2. 研究成果をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
		○	○		
授業計画	1. 執筆スケジュールの確認 2. ～10. レポート執筆 ①Word の使い方 ②Excel の使い方(図表の作成) 11. ～13. プレゼンテーション準備 ①Power point の使い方 ②口演発表、ポスター発表 14. プレゼンテーションの実際 15. レポートの振り返り				
事前・事後学習について	養護教育や学校保健の分野に貢献できるようなレポートにしていきたいと思います。				
準備学習に必要な時間	特に指定なし。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	20	発信力・技能		
	レポート	80	思考力・判断力・表現力		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	意欲的に臨んでください。				
使用テキスト	なし				
参考書	適宜指示する。				

対象学生	養護教育専攻 2		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	修了研究Ⅲ	Y33039	通年	演習	2				
担当教員	澤田 有香								
授業の概要	指導教員と連絡を取り合い、研究がより深く、また、研究テーマに沿った内容になっているか丁寧に進めていきます。なお、研究の成果を本科生に発信していきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究をまとめ、推敲し論文として整えることができる。</li> <li>・自分の研究をパワーポイントにて発信できる。</li> </ul>								
学位授与方針との 関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3						
		○	○						
授業計画	1. ～3. 指導教員のもとで、本論（結果）を書いていこう 4. 図表を効果的に利用しよう 5. ～7. 先行研究をまとめよう 8. ～11. 考察をまとめよう 12. ～13. 序論・結論を加えよう 14. 論文（下書き）を整えよう 推敲 15. 後輩に研究内容を発表しよう *卒業研究発表会で口演します								
事前・事後学習について	レポートの作成が課題です。 よい論文になるように、指導教員と連絡を取り合い、率先して論文に向き合いましょう。								
準備学習に必要な時間	特に指定なし。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	20	意欲・技能						
	レポート	80	思考力・判断力・表現力						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	定期的にレポートを提出してもらいます。提出日を厳守してください。 添削して返却します。								
使用テキスト	なし								
参考書	適宜指示する。								